

高速化進む次世代インターネット環境に対応 『USG-1000』でホットスポット市場にも積極攻勢

ノマディクス社のブロードバンド対応アクセスゲートウェイ装置『USG-1000』を武器に、インターネットホテル/マンション構築で高い実績を上げている理経が、ホットスポット構築でも意欲的な事業展開をみせている。同社IT統括部IPアクセス営業部ブロードバンド課の竹内啓二氏が、USGがホットスポット市場にもたらす新たなビジネスモデルを語った。

本日は私どもが扱っておりますNOMADIX社のユニバーサル・サブスクリバラー・ゲートウェイ『USG-1000』を利用したホットスポット・ソリューションを紹介します。

USG-1000 (以下USG) は、これまでホテルや集合住宅でのインターネット接続で高い実績を上げています。この2年半の間で、ホテルへの導入は100を数え、マンションではおよそ700拠点でご利用いただいています。さらに、ホットスポットでも、ヒルトンホテルのラウンジルームでのワイヤレスアクセスポイント設置を始め、コクヨの運営による東京駅でのデスクアット・サービスなどのバックボーン側で利用されています。トータルで現在800数十の実績、近いうちに1000近い数字になると期待しています。

導入側のメリットを高める 3つの付加価値機能

では、USGが具体的にどう使われ、導入先にどのようなメリットを提供しているのでしょうか。まずはホテルの例をベースに説明を進め、次にホットスポット構築へのご提案を述べます。

①設定不要のPlug&Play機能

お客様が出張先のホテルから、自分

のPCで会社へアクセスするとします。この時持参のPCからのアクセス設定は、DHCPクライアントであったり、グローバルIP、プライベートアドレスを使用するのアクセスなどさまざまです。

一方ホテル側では、一番簡単な方法であるDHCPサーバーを立ち上げて、お客様に「一律にDHCPクライアントの設定をして下さい」と要求することになります。

しかし、お客様すべてがコンピューターに詳しいとは限りませんから、当然ホテルのフロントに問い合わせが入ることになります。また、DHCPクライアントの設定をして再起動すると、本来スタティックに書いてあったIPアドレスが消えてしまい、これもホテルのフロントへの問い合わせを増やす原因となります。もちろんホテル側もコンピューターに詳しいスタッフが必ず待機しているとは限らないので、こうした問い合わせに対応し切れないケースが出てきます。

そうした場合、USGの設定不要のPlug&Play機能が威力を発揮します。スタティックなIPアドレスを設定したお客様のPCからアクセスすると、USGが自動的に都合のよいIPアドレ



NOMADIX社の「USG-1000」

スに変換してインターネットに接続します。また、DHCPクライアントとしてアクセスしてきた場合は、USGがDHCPサーバーになります。お客様は室内のLANポートにケーブルを接続し、PCを立ち上げるだけで、どのような設定変更もする必要がありません。

また、今はADSLやCATV、あるいはイーサネットでもインターネット接続することが多いと思いますが、特にイーサネットでは細かい設定やプロキシ設定が必要になります。このような場合にも面倒な設定がまったく必要なPlug & Play機能がお客様に大きなメリットを提供します。

②リダイレクション機能と課金

お客様のPCのブラウザ初期画面は、Yahoo!のような好みのページが設定してあるかもしれません。ホテル側としては「初期画面に自社のホームページを表示したい」と考えるでしょう。

USGのリダイレクション機能を使えば、お客様の初期画面をホテルの

WebサイトやISPのサイトに、自動的に設定できます。この機能を使えば、効果的なポータルサイトとの組み合わせにより、コンテンツサービスや広告収入などの新たなビジネス創造も可能になります。

またUSGは、お客様からのアクセスに対してユーザー認証や課金登録、課金入力の処理を行います。それをホテル側の課金サーバーに連動させることで、お客様への一括した料金請求を可能にしています。

③自動ブートアップ機能

サーバータイプのマシンは、何か障害が発生すると誰かが現場へ行って再起動をかけ、ソフトを立ち上げ直すなくてはなりません。しかし、USGはサーバータイプではなくハードウェア一体型なので、リモートで再起動がかけられます。あるいはホテルの管理者が、スイッチ1つで自動的にブートアップさせることもできます。

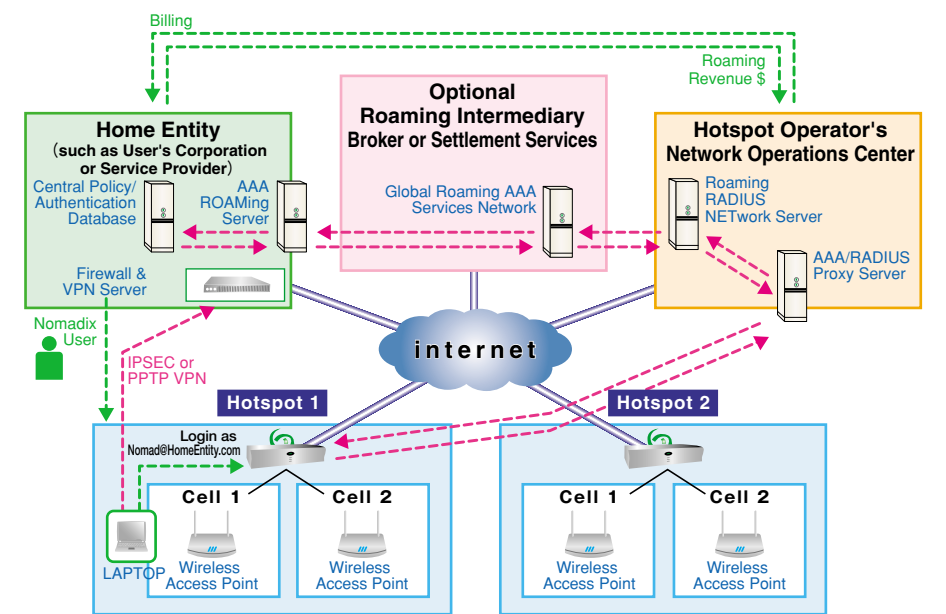
また、OSにVXWORKSを採用しているため、ウィルスにも強いという特徴があります。昨年多くのコンピューターマシンが被害を受けた状況下でも、USGには影響がありませんでした。

USGが実現する ホットスポットのローミング

では、USGの機能を生かしたビジネスモデルについて、私どもの考えを紹介します。

まず、ホットスポットの運営会社が複数のISPと提携することで、より多くのインターネット利用者にサービスを提供することが可能になると考えています。運営会社では、先ほど紹介し

Wireless Hotspot Reference with WISP Roaming



たUSGのホームページリダイレクション機能を利用し、多くのお客様に自社や提携先の宣伝をすることもできます。

また、提携先のISPには加入者のプロファイルがありますから、加入者ごとに適したページを優先して見せることも可能です。これにはローミングの機能が必要になりますが、USGを使えば、お客様に新たにソフトやユーティリティをインストールしていただく必要がありません。USGの認証はブラウザ画面で行うことができ、加入者がすでにもらっているIDパスワードで運営会社のRADIUSサーバーにアクセスし、そのRADIUS機能を使ってローミングをかけます。これによって提携先のISPからインターネットへ接続することができます。

収益面を考えると、まずホットスポット運営会社は、提携したISPの加入者がホットスポットを利用する時のローミング料金を得る仕組みが作れるで

しょう。一方、ISP側は加入者から安価なホットスポットサービス料を徴収できます。

こうしたビジネスは、ホットスポットを開設できる“スペース”を有する企業にとっても、インターネットを使える場所の提供が集客のための有効策となります。

よりよいホットスポットの構築ができれば、さまざまなビジネスチャンスが生まれてくるのではないかと思います。理経としては、ISP間あるいはユーザー間のローミングソリューションなども併せて提供することで、これからもホットスポット環境の充実に邁進していきます。

お問い合わせ先
株式会社 理経
IPアクセス営業部ブロードバンド課
TEL : 03-3345-2189
E-mail : bbs_sales@rikei.co.jp
URL : http://www.rikei.co.jp